

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

桜島では、火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを 2 から 3 に引き上げました。

桜島の昭和火口（南岳東斜面、標高約 800m）で、8 日 00 時 29 分に火砕流を伴う爆発的噴火が発生しました。昭和火口から爆発的噴火が発生したのは、今年（2008 年）2 月 6 日以来です。

桜島では、過去の事例から見ると小規模な噴火であっても、火砕流（火口から約 1 km 程度流下）が発生する可能性があります。

また、火口から 2 km 程度の範囲に弾道を描いて飛散する大きな噴石が飛散する可能性もあります。

火口から 2 km 程度の範囲では警戒が必要です。

活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1，2）

本日（8 日）00 時 29 分に昭和火口で火砕流を伴う爆発的噴火が発生しました。噴煙の高さは火口縁上 1,200m で、南東に流れました。高感度の遠望カメラによると、弾道を描いて飛散する大きな噴石が五合目まで達しました。

昭和火口で爆発的噴火が発生したのは 2 月 6 日以来です。

・地震や微動の発生状況（図 2）

爆発的噴火に伴う火山性地震を観測しましたが、火山性地震の発生状況は少ない状態で経過しました。火山性微動は 2 月 7 日以降発生していません。

・現地の状況（図 3，4，5）

本日、06 時 20 分頃実施した黒神河原での現地調査では、00 時 29 分の爆発的噴火によるものと思われる火砕流流下（約 1 km）の痕跡を確認しました。

昭和火口からは少量（白色）で高さ 200m 程度の噴煙を上げているのを観測しました。

また、風下の有村町付近（昭和火口の南東側約 3 km）では直径約 1 cm の小さな噴石（火山れき）を確認しました。

この資料は気象庁のほか、大隅河川国道事務所、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「25000 分の 1」地図画像を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。



図 1 桜島 昭和火口で発生した 00 時 29 分の爆発的噴火
(昭和火口の東約 3.5km に大隅河川国道事務所が設置した高感度の遠望カメラによる)

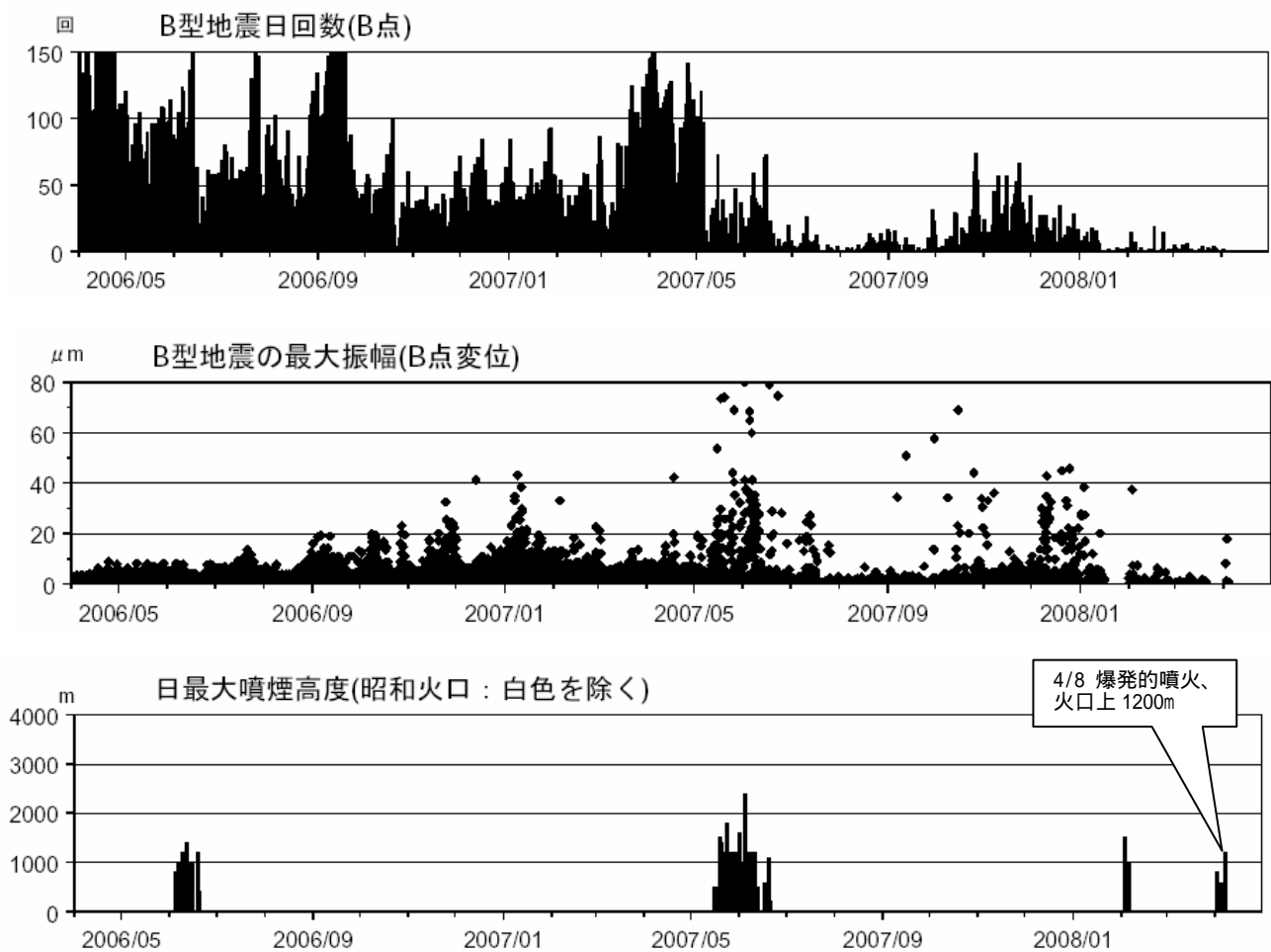


図 2 桜島 最近 2 年間の地震経過図と昭和火口の噴煙経過図(2006 年 4 月～2008 年 4 月 8 日)
・火山性地震は少ない状態で経過しました。また、昭和火口では 3 日の噴火以降、断続的に噴火が続いています。



図 3 桜島 00 時 29 分の爆発的噴火による火砕流流下跡(8 日 06 時 28 分黒神河原より撮影)
・火砕流が昭和火口より東側に約 1 km 流下しているのを確認しました。



図 4 桜島 有村町付近の噴石の状況(8 日 07 時 10 分頃有村展望所で撮影)
・直径約 1 cm の小さな噴石を確認しました。

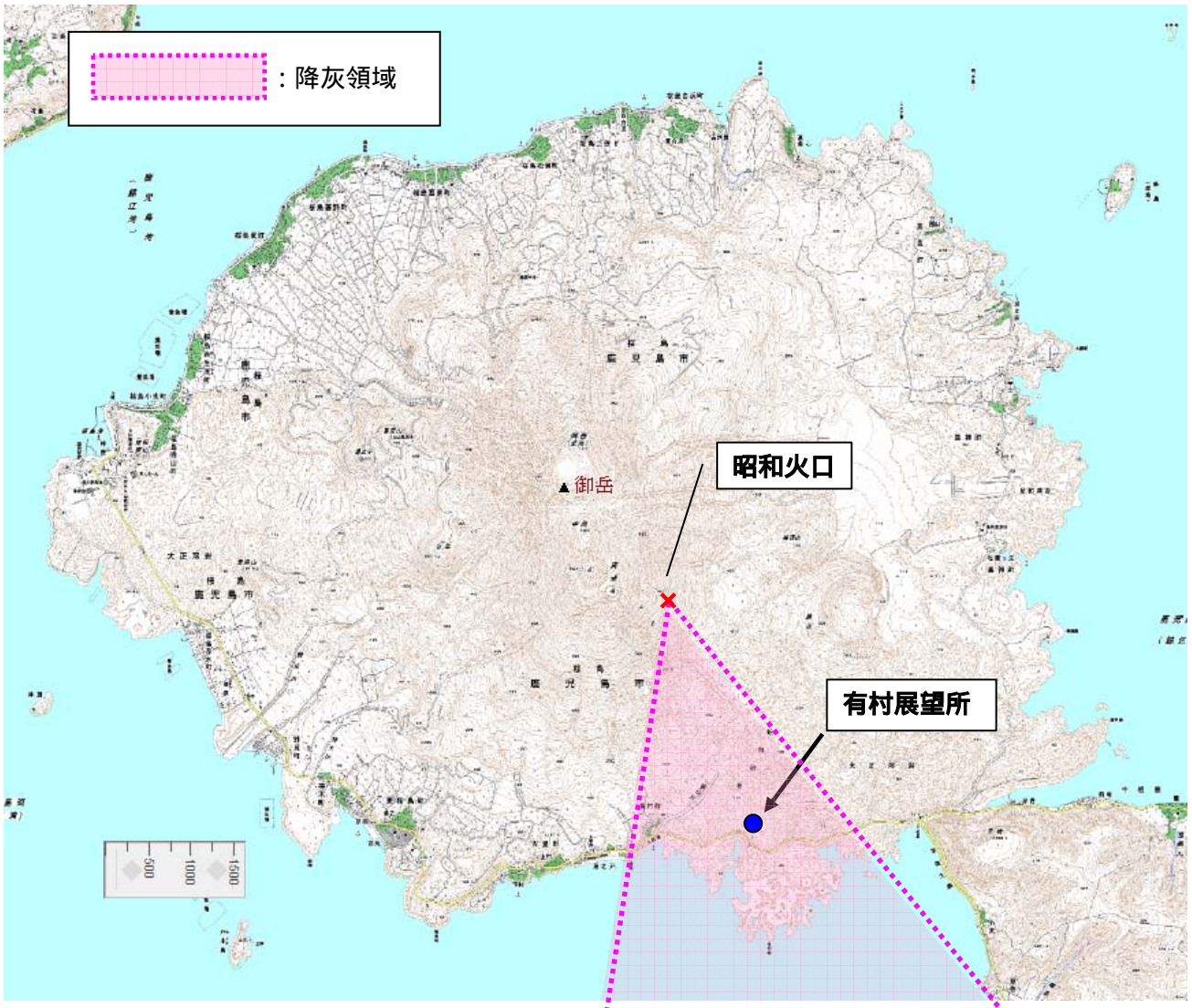


図 5 桜島 降灰の状況(8日07時頃観測)
・昭和火口の南東から南側で降灰を確認しました。